

## ■就活うつ・就活自殺データ ※表内の自殺要因の「うつ病」は「就活うつ」とは限らない

○表1：大学生の自殺者数と原因・動機別人数

	学生・生徒	大学生	大学生の自殺の主な原因・動機別人数			
			就職失敗	うつ病	進路に関する悩み	学業不振
2007年	873	461	13	99	53	55
2008年	972	536	22	111	58	81
2009年	945	528	23	111	60	81
2010年	928	513	46	85	73	79
2011年	1,029	529	41	69	83	93
2012年	931	480	45	45	76	86

出所：警察庁 『自殺の概要資料』※学生・生徒は大学だけでなく小中高、専修学校生などを含む。

○2012年：大学生における自殺原因・動機ベスト3（原因別人数を大学生の総数480人で割った）

1位 学業不振 17.9%    2位 進路の悩み 15.8%    3位 うつ病 9.4%    3位 就職失敗 9.4%  
上記4要因の合計    52.5%

○表2：20代における「就職失敗」による自殺者数の推移（単位：人、出所：上表に同様）

	学生・生徒等			大学生	20-29歳			全体
	総数	男性	女性		総数	男性	女性	
2007年	16	16	0	13	60	51	9	183
2008年	27	21	6	22	86	69	17	253
2009年	33	26	7	23	122	98	24	354
2010年	53	46	7	46	153	138	15	424
2011年	52	43	9	41	141	119	22	363
2012年	54	50	4	45	149	130	19	342

全体：全年齢における「就職失敗」の合計数

○表3：2012年 20代における男女別自殺動機みるジェンダーギャップ（単位：人、出所：上表に同様）

	男性	女性	男女比
参考：全年齢自殺者数	19,379	9,017	2.15
20代自殺者数	2,199	910	2.42
うつ病	276	259	1.07
就職失敗	130	19	6.84
進路に関する悩み	80	13	6.15
学業不振	75	11	6.82
経済問題	409	45	9.09

○今までに本気で自殺したいと思ったことがあるか聞いたところ、「ある」と答えた者は20歳代で**28.4%**。

※40歳代（27.3%）、50歳代（25.7%）、30歳代（25.0%）：『自殺対策に関する意識調査』内閣府 20歳代 204名

○就活生の7人に1人がうつ状態であることが判明。うつ病の診断に利用される基準「ICD-10」を参考にチェック項目を設け、該当数でうつ症状の重さを評価したところ、軽症・中程度・重症を合わせて**14.4%**が「就活うつ」状態。

NPO法人 POSSE『若者の仕事とうつ』アンケート調査 2011年 学生 634名

## ■ 学生を心理的に追い込む就活の状況

### ○ 自信のゆらぎ

- ・ 他者との優劣を他者から比較される、自分でも比較してしまう。
- ・ 企業・社会の人材ニーズへ、過剰適応しようとして挫折する。
- ・ 「なぜ自分が採用されないかわからない」「なぜ他の人が採用されるかわからない」ので、不安がぬくえない。
- ・ 「正社員に絶対になりたい 70.2%」「できればやりたい 26.4%」。合わせると 96.6%の学生が正規採用を希望している。：2013年 ライフリンク『就職活動に関わる意識調査』
- ・ 就活の過程で、「会社に気に入られないほうが悪い」と考える習性をたたき込まれてしまっているため、ここからこぼれると、「自分がダメだったからだ」、と思い込んで、自己否定へと追い込まれていく：『現代思想』2013年4月 p.40
- ・ 就活を通じて自分が見えなくなる：『これが論点！就職問題』 就活に追い詰められる学生たち より

### ○ 社会観・現実認識

- ・ 日本社会は、いざという時に何もしてくれない 65%、日本社会は、正直者が馬鹿をみる社会だ 69%：2013年 ライフリンク『就職活動に関わる意識調査』
- ・ 正規採用を逃すと、人生もうおしまいだ（正規と非正規の生涯賃金の比較から）。結婚もできない。反対に、大手有名企業に正規採用されれば安泰だと安易に考えて、こだわり続ける。

### ○ 奨学金という借金

- ・ 奨学金を受けている大学生（昼間部）の割合は、1998年には23.9%であったのが2010年には50.7%にまで上昇。98年の約50万人から2011年には127万人へと増加している。
- ・ 奨学金を月12万円借りている場合、第二種の有利子奨学金で利子が3%の場合、返済総額は775万円。月額32,297円を20年間も支払わなくてはならない。
- ・ 就活失敗したから、「留年すればいいや、進学に変えよう、フリーターになろう」という選択は、一般家庭では困難。
- ・ 内定が出たとしても、給与面で生活の見通しのつかないという理由で辞退するケースもある。  
：『現代思想』2013年4月 「全身就活」から脱するために 参考

### ○ 就活に関わる経済的負担

- ・ 就活にかかる費用は、平均15万4千円。関東で12万5千円、東北で17万4千円。35%は自分で工面。他は親から。：『日経就職ナビ2013 就職活動モニター調査』（2012年10月）結果より
- ・ アルバイトを就活のために減らした学生（56%）は経済的困難を、増やした学生は時間的負担がかかり学業を圧迫しているだろう。：『これが論点！就職問題』 就活に追い詰められる学生たち より

### ○ 世代間ギャップ（親の不理解や過干渉）

- ・ 親の年齢は40代後半から50代前半。新規学卒一括採用が機能していて、短大・四大卒の学生は、ほぼ正社員になれた世代。親が「大企業・正社員就職」に対する幻想をいまだに持

ち続けている。

- ・ 特に母親は短大を卒業してOLになり、寿退社するのが理想とされていた世代。八〇年の平均初婚年齢が25.2歳、九〇年でも25.9歳。八〇年～九〇年にかけての女性の生涯未婚率はわずかに4%代。：『現代思想』2013年4月 p.44-49 参考
- ・ 内定が出ても、有名企業でないからという理由で辞退させる親、資格取得パンフレットを子どもに送ったり、説明会の開催情報を頻りにメールしてくる親。親の過干渉によるプレッシャーに、授業料を出してもらっている手前耐えている場合も少なくない。：NHK ハートネットTV 2012年7月『就活活動期の“うつ”』より

### ○ 人間関係のゆらぎ

- ・ 調査によると、就活に「役立つ情報源」も「プレッシャーになる情報源」も共に「友人・知人」が1位。周囲に取り残されてしまうことへの不安を助長。
- ・ 保護者からの「大企業・正社員就職」への期待もプレッシャーになっている。
- ・ 普段は、相談相手として一番頼りにしていた「友人・知人」や「家族」が就活の場面では不安要因となっている。  
：2013年 ライフリンク『就職活動に関わる意識調査』

### ○ ジェンダー観（男は仕事、女は家庭）

- ・ ジェンダーギャップが135ヶ国中101位（2012年世界経済フォーラムレポート）という男性中心社会にあって、それは逆に男性に対しては、一定年齢に達すれば仕事に就き、妻子を養えるだけの稼ぎを当たり前で期待される社会ともいえる。
- ・ 全年齢における自殺の男女比が2.15に対して、20代の「就職失敗」に限定すると6.84である（表3参照）。
- ・ 仕事世界への入り口の段階で躓くことによる不安感・絶望感が20代男性に重くのしかかっている。  
：『現代思想』2013年5月 「就活自殺」とジェンダー構造 参考

### ○ キャリア教育の課題

- ・ 現在、ストレートキャリア（正社員至上主義）を前提としたキャリア支援が中心。非正規雇用となった学生のキャリア形成に向けたエンパワーメントができていないために、不本意ながらストレーターになれなかった学生は「ぼくは忍耐力のないだめなワカモノなんだ」と、後ろめたさを感じている。：児美川孝一郎
- ・ 大学に100人入学したら12人が中退し、13人が留年し、残る75人のうち就職できるのは45人で、3年続くのは31人。いわゆるストレーターは31%。これが日本の平均。偏差値30～40代の大学はもっとひどい。：日本中退予防研究所 山本繁
- ・ 乾彰夫は、キャリア教育の成果は「若者の必死のがんばり」だとして、どんなに辛い仕事でも堪え忍ぶ意識を根付かせたことで、「ブラック企業」の蔓延や、うつ病を含む「気分障害」の大幅な増加を後押ししているのではないかと推察している。：『現代思想』2012年4月 キャリア教育は何をもたらしたのか。